

## 1. 総論

【総括判断】「管内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある」

項目	前回（2年1月判断）	今回（2年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある	↓

（注）2年4月判断は、前回1月判断以降、4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売は前年並みとなっており、コンビニエンスストア販売は堅調に推移しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下で急速に下押しされ、弱い動きとなっている。生産活動は、感染症の影響により、足下で下押しされ、弱い動きとなっている。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善していたが、感染症の影響がみられる。

## 【各項目の判断】

項目	前回（2年1月判断）	今回（2年4月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	↓
生産活動	緩やかに拡大しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている	↓
雇用情勢	改善しているなかで、人手不足感が強い状況が続いている	改善していたが、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる	↓
設備投資	元年度は増加見込み	元年度は増加見込み	→
企業収益	元年度は増益見込み	元年度は増益見込み	→
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	→

## 【先行き】

先行きについては、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が続く見込みであり、さらなる下振れリスクにも十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている」

百貨店・スーパー販売は、暖冬の影響から衣料品が低調であったものの、食料品などの動きから前年並みとなっている。コンビニエンスストア販売は、デザートなどを中心に堅調に推移している。ドラッグストア販売は、マスク・ウイルス対策商品を中心に好調に推移している。ホームセンター販売は、園芸用品やマスク・ウイルス対策商品を中心に堅調に推移している。家電大型専門店販売は、テレビやパソコンを中心に回復傾向にある。乗用車の新車販売及び宿泊者数（延べ）は、前年を下回っている。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下で急速に下押しされた状況にある。

#### (主なヒアリング結果)

- 暖冬の影響から冬物衣料の最終処分動きが悪く衣料品の売上が苦戦したことに加え、3月は感染症の影響による外出自粛から、入店客数・売上ともに大きく減少している。(百貨店・スーパー)
- 食料品は一貫して前年比増となっており、2月後半からは感染症の影響により、レトルト食品やインスタント食品を中心に好調となっている。また、巣ごもり需要の高まりからネットスーパーの売上が伸びている。(百貨店・スーパー)
- 3月に入っても学校休校、在宅勤務により引き続きデザートなどは好調であるが、全体では来店客数が激減したことで大幅な売上減となりそうである。(コンビニエンスストア)
- 暖冬の影響から暖房器具が不調であったものの、園芸用品が好調であったほか、感染症の影響により、マスクやウイルス対策商品が好調であった。なお、一部中国製の商品に欠品がみられ、売上に影響が出ている。(ホームセンター)
- 引き続きテレビやパソコンに買い替え需要がみられるものの、感染症の影響により、来店客数が減少し、新生活商戦は盛り上がり欠けている。(家電大型専門店)
- 消費税率引上げによる消費者マインドの低下に回復の兆しがみられていたものの、感染症の影響により、来店客数が減少している。(自動車業界団体)
- 春節時期までは中国人観光客を中心に好調に推移していたが、1月下旬以降は予約のキャンセルが相次ぎ、足下では入国規制もあるため、九州への訪日客の中心である東アジア4ヵ国・地域からの観光客はほぼゼロの状態である。(観光業界団体)

### ■ 生産活動 「新型コロナウイルス感染症の影響により、弱い動きとなっている」

食料品等は、畜産製品等が堅調である。電子部品・デバイス、スマートフォン向け部品の受注が減少している。化学・石油製品は、北米向け製品に弱い動きがみられる。汎用・生産用・業務用機械は、自動車関連製造装置が低調である。輸送機械は、自動車及び同部品が低調である。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下で下押しされた状況にある。

- 消費者の健康志向の高まりにより、鶏肉の需要は堅調なことから、高い生産水準が継続している。(食料品等)
- 主力のスマートフォン向け部品は、年度末に向けた在庫調整により受注が減少している(電子部品・デバイス)
- 北米の天候不順の影響により、農薬の出荷が当初の想定よりも下回っていることから、工場の稼働率が低下している。また、感染症の影響により、原材料の調達に支障が生じており、更なる稼働率低下が懸念される。(化学・石油製品)
- 感染症の影響により、自動車部品メーカーの海外工場が操業を停止したことから、当社工場も低稼働の状況が続いている。(汎用・生産用・業務用機械)
- 主力車を中心に好調な生産が続いていたが、感染症の影響により、販売店の客足が急激に減少していることから、工場の稼働率も低下している。(輸送機械)

### ■ 雇用情勢 「改善していたが、新型コロナウイルス感染症の影響がみられる」

有効求人倍率は、高水準で推移してきたものの、新規求人数は、職業紹介・労働者派遣業、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業を中心に幅広い業種で前年を下回っている。

- 感染症の影響により勤務体制を見直し、雇用調整助成金を活用する予定。(金属製品製造業)
- 2月下旬以降、事業所から、雇用維持を前提とした雇用調整助成金に関する相談が増えている。(公的機関)
- 現在、正社員の解雇などは考えていないが、感染症の影響が長期化した場合は、非正規社員の人員を見直さざるを得ない。(自動車・同附属品)
- 感染症の影響による資金繰り悪化や収益急減の対応として、全従業員の残業抑制やレストラン部門の休業日の設定、営業時間短縮などを実施している。(宿泊業)

■ **設備投資 「元年度は増加見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」2年1～3月期

- 製造業では、食料品製造業などで減少見込みとなっているものの、情報通信機械器具製造業などで増加見込みとなっており、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、金融業、保険業などで増加見込みとなっているものの、電気・ガス・水道業などで減少見込みとなっており、全体では減少見込みとなっている。

- 増産に向けた積極的な投資を実施。（情報通信機械器具製造業）
- 店舗建替えや情報通信機器の整備を実施。（金融業、保険業）

■ **企業収益 「元年度は増益見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」2年1～3月期

- 製造業では、その他の輸送用機械器具製造業などで減益見込みとなっているものの、情報通信機械器具製造業などで増益見込みとなっており、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、卸売業などで増益見込みとなっているものの、宿泊業、飲食サービス業などで減益見込みとなっており、全体では減益見込みとなっている。

■ **企業の景況感 「『下降』超幅が拡大」**（全産業）「法人企業景気予測調査」2年1～3月期

- 企業の景況判断BSIは、前期(元年10～12月期)に比べ、全産業では「下降」超幅が拡大している。なお、先行きについては、2年4～6月期は「下降」超幅が縮小する見通しとなっている。

■ **住宅建設 「弱含んでいる」**

- 新設住宅着工戸数をみると、前年を下回っている。

■ **公共事業**

- 公共工事前払金保証統計の請負金額（元年度末累計）でみると、前年度を上回っている。





■ **農業**

- 野菜について、農協共販量は12月は前年を上回り、1月、2月は前年を下回っている。販売単価は12月から2月まで前年を上回っている。
- 畜産物について、牛のと畜頭数は12月は前年を下回り、1月は前年を上回り、2月は前年を下回っている。枝肉卸売価格は12月から2月まで前年を下回っている。豚のと畜頭数は12月から2月まで前年を上回っている。枝肉卸売価格は12月、1月は前年を上回り、2月は前年を下回っている。

■ **倒産**

- 企業倒産（2年1～3月期）は、件数は前年を上回り、負債金額は前年を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回（2年1月判断）	今回（2年4月判断）	前回比較	総括判断の要点
熊本県	緩やかに回復している	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある		個人消費は、百貨店・スーパー販売及びコンビニエンスストア販売は前年並みとなっているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下で急速に下押しされ、弱い動きとなっている。生産活動は、感染症の影響により、足下で下押しされ、弱い動きとなっている。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善していたが、感染症の影響がみられる。
大分県	緩やかに持ち直している	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある		個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、消費行動が抑制されているなど、弱い動きとなっている。また、生産活動は、感染症の影響により、海外需要が減少しているなど、弱い動きとなっている。雇用情勢は、改善していたが、感染症の影響がみられる。
宮崎県	緩やかに持ち直している	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされており、厳しい状況にある		個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの業態で来店客数の減少がみられていることなどから、足下で急速に下押しされ、弱い動きとなっている。また、生産活動は、感染症の影響により、足下で下押しされ、弱い動きとなっている。さらに、雇用情勢は、有効求人倍率が高水準で推移するなど改善していたが、感染症の影響がみられる。
鹿児島県	緩やかに回復しつつある	新型コロナウイルス感染症の影響により、経済活動が抑制されるなか、足下で急速に下押しされた状況にある		個人消費は、百貨店・スーパー販売は前年並みとなっているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、足下で急速に下押しされ、弱含んでいる。生産活動は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、海外需要の減少等による弱さもみられており、一進一退の状況にあるなかで、感染症の影響がみられる。雇用情勢は、改善していたが、感染症の影響がみられる。